

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属(本学)	理工学研究科 電子物理工学専攻		
現在の学年	修士 2 年		
留学先国	シンガポール	留学先大学	シンガポール国立大学
留学期間	2016 年 9 月 12 日～2016 年 12 月 26 日		

① 留学先大学の概略

アジアトップ大学(2016-2017 Time higher education 12 位)に君臨する大学。日本の大学と比べ、留学生の比率が高く、多種多様な人たちが集まる。また国から莫大な金額の投資を受けていることから、非常に学内の設備(スーパーやカフェテリア、住居等)が充実している。これだけ聞くと超エリート大学と思うかもしれないが、生徒一人ひとりを見ていると実際はそこまででもないと感じた(もちろんすごい大学であることは間違いないのだが)。

② 留学前の準備

私は修士 2 年での留学ということで準備は大変であった。もともとこのプログラムに応募した当初は就職活動期間が留学期間と重なるのを考慮して、在学期間を半年ないし一年間延長する予定だった。しかし学内選考に通過後、経団連が就職活動の時期を変更し(時期は大体 10 月ごろで、会社の選考開始の時期が 8 月から 6 月に変更になった)、それを受け在学期間を伸ばさずに留学をしようと考えた。指導教官と相談の末、研究を前倒しに行い、留学前に結果が出ることを前提に許可をもらった。留学前は研究をやりつつも就職活動を行いかなり大変だった。語学に関しては、学部 4 年から留学したいと考えるようになり、学内の短期留学プログラムを活用しつつ、語学の授業や国際交流イベントに参加して、英語力を磨いた。

③ 留学中の勉学・研究

私は研究型の留学だったので、授業などは受講しなかった(本当は授業を聴講したかったのだが、受け入れ先の研究室のトラブルにより留学のスタートが遅れてしまったのと、研究が大変で授業を取れなかった)。テーマは有機太陽電池で、有機材料に適切なドーピング(添加物)を加えることによる変換効率向上を目的としたもので、私はその最適な条件というのを実験から求めた。東工大では、有機太陽電池を電気的な側面から見ていく、比較的基礎研究に近いものだったのに対し、こちらでは化学的な側面からアプローチしていく、応用研究だったので研究テーマは面白みのあるものだった。電気系出身ということもあり、化学分野はあまりなじみがなかったが、有機太陽電池の分野における視野を広げられたのではないかなと思った。また現地での輪講にも参加し、進捗報告をした。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

留学時期がずれたことや、学内の寮に泊まれなかったこと、そして何より自身の社交性のなさから現地の人との交流というのは極めて少なかった。基本的に朝の 9 時に研究室に行き、8-10 時くらいに家に帰るため平日は特に何もなかった。休日には一人で国内を観光することが多く、たまに日本人の知り合いと会ってお酒を飲んでいて。あとはマレーシアとインドネシアに旅行したり、現地のマラソン大会やボランティアに参加した。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

向こうにいたことで色々感じたことはたくさんあるが、大きく成長したと胸を張って言えるものはあまりないというのが正直な感想だ。強いて言うなら留学前より、ちょっとだけ英語でのやりとりはできるようになったぐらいだろう。当たり前だが、研究室で日本語をしゃべる人はいないので、相手の言っていることをちゃんと聞きとり、質問をするなどをしないと研究を進めることができない。最初の内は言われたとおりに研究を進めていたが、後半は研究プランや結果について簡単にだが議論することができた。特に議論の中で自分の研究プランを提案し、その提案のもと実験を進めた結果、ぶち当たっていた課題を解決することに成功したときは研究力・語学力の成長を感じた。

⑥ 留学費用

渡航費 : 15 万 (5 万 + 10 万 (一時帰国をしたため))

生活費 : 4 万/月

住居費 : 6 万 5 千/月

奨学金 : 20 万/月 + 10 万 (渡航費)

⑦ 留学先での住居

大学の寮の抽選から外れたため外部の住居を探すことになった。その際に大学のホームページにおすすめの外部の住居が紹介されていて、それを参照にして住居を決めた。住居は高くても落ち着く場所がいいと思い、一人部屋の値段が高めの住居を選んだ(ロコミとかを確認せず、安易に選んでしまった)。その結果高いお金を払ったのに悲惨な場所に住むという一番あって欲しくない事態に陥ってしまった。部屋は狭くて汚くて、嫌なおいがする。おまけに換気もできないので空気も悪い。また設備についても、たまに故障する洗濯機(洗濯してくれるのだが、脱水をしてくれなくてびしょびしょのまま取り出さなくてはいけない)、ネット環境がない(初日にアダプターを渡されたが、今時アダプターが使えるノートパソコンなど稀だ)、たまにお湯がでないシャワーなど中々の環境だと思った。ポジティブに考えると、住居の大切さを改めて実感するいい機会になったかもしれない。

また他の留学生に聞いたところ、一度寮の抽選に外れても、大学側に直接問い合わせると案外空いている部屋があってそこに泊まれることもあるので、今後シンガポール国立大学に留学する予定があり、抽選から外れた人はぜひあきらめずに交渉してほしい。

⑧ 留学先での語学状況

そもそも英語を勉強し始めたときからリスニングが苦手であったこともあり、おそらく聞き取れないだろうと予想していたら本当にそうだった。もともと留学前の TOEFL も 80 点というかなり低い点数だった上、修士 2 年になってからは就職活動と研究に追われ、英語の勉強をサボってしまったからだろう。しかし最低限度のスピーキング能力とリスニング能力があれば生活に困ることはなかった。研究室での生活でも、1 対 1 の会話であれば、相手が何を言っているかが予測できるし、簡単な内容であれば自分の意見を言うこともできた。

⑨ 単位認定、在学期間

単位認定はしない予定。在学期間も延長しない。

⑩ 就職活動

前述の通り、私は留学前に就職活動を行った。そのため正式に就職活動が解禁される前から情報収集を行い、解禁後も受ける企業は絞った。

⑪ 留学先で困ったこと

やはり住居についてだろう。近隣住民が夜中の 2-3 時に大きな声でしゃべる、音楽を大音量で流すなどをされ、眠れない日があった。もちろん注意したが止めてもらえなかった。また寮に苦情を言ったが、ちゃんとした対応はとってもらえず、部屋の変更を訴えても追加料金を取るとの一点張りで部屋を変えてもらうことはできなかった。また、部屋の衛生面が悪くなかったことから風邪を引いたときは非常につらかった。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

どんな形であれ、機会があれば留学をした方がいいと思います。私は 10 年ほど前にシンガポールに旅行で訪れていたことから、今回の留学に対して、特に刺激とかは感じないだろうなと思っていましたが、そんなことはなかったです(旅行を通じて感じたことと、現地での生活を通じて感じたことはまったく異なるものだと感じました)。どんなモチベーションであれ、現地で生活することでその国のいいことや悪いことなど色々と思えてくると思います(特にシンガポールは独特の国でそれを感じやすかった)。もし留学についてハードルが高いと考えている方がいれば、それは大きな間違いです。お金と手間さえかければ誰でも海外に行けます。特に近年では国も大学も留学を推進しており、奨学金も受給しやすい環境になっているので留学というのが本当に身近になっているのだなと感じます。また留学を通じて、国内外で知り合いが増え、交流関係が増えるのも留学の醍醐味だと私は思います(もしかしたら、そちらの方が重要かもしれません)。基本的に失うものよりも得るものの方が多いと思うので、是非留学にチャレンジしてみてください。